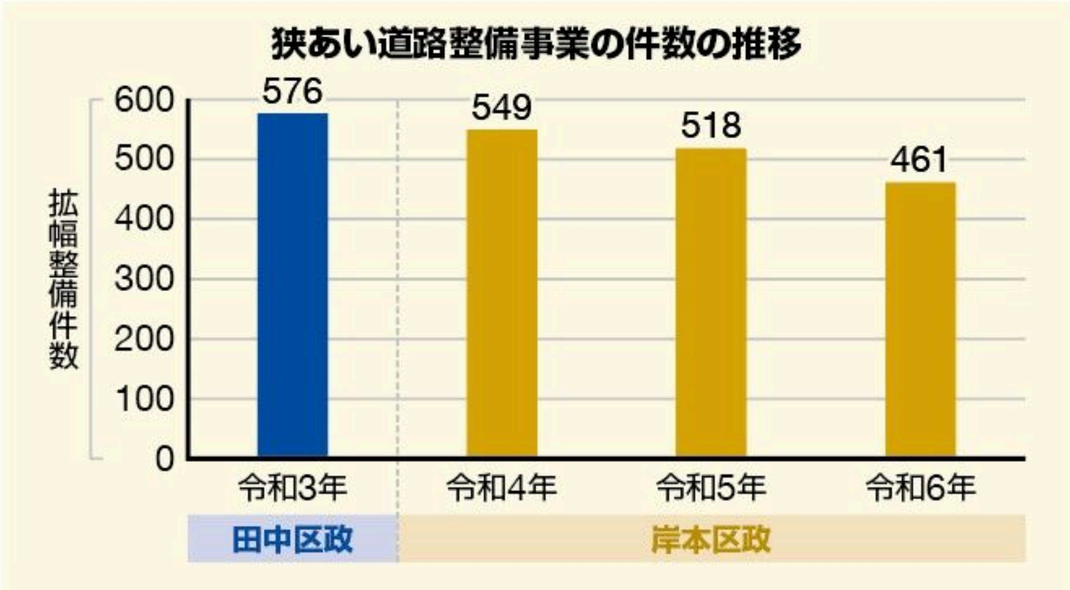
杉並区のインフラ整備は大丈夫なの？

杉並区では昨年、堀之内で擁壁が崩落し家屋が崩壊する事故が発生しました。また、今年になってからは連続して火災が発生し、死亡者も出ました。これらは私たちの生活が危険と隣り合わせであることを物語っています。そこで今回は、区民が安全に暮らすための道路などの整備と行政の責務について田中良前杉並区長に伺いました。

Q：田中さん、区内には消防車が通れない道路も多いですよね。こうした課題に行政はどのように取り組んでいるのですか。

A：**救急車や消防車が通れない道路の解消が急務**です。杉並区内には、道路の幅が4メートルに満たない狭あい道路が区内の道路の30%にのぼっています。こういった道路が集中しているところが木造密集地域、いわゆる「木密」と言われ、火災によるリスクが高い地域なのです。この狭あい道路を拡幅整備することは、災害時の対応は勿論のこと清掃車やデイサービスの送迎車の運行など、日常生活にとってもとても重要な課題なのです。

私は区長在職中、この**狭あい道路の解消を最重点課題の一つ**に掲げ、根拠条例の制定などに取り組んできましたが、現在の岸本区政になって整備件数は、大きく後退しています。



今こそ地域のリスクを総点検して、安心のまちづくりを!

Q：狭あい道路以外にもいろんなリスクがあると思います。こうした身近な危険とどのように向き合ったらよいのか、田中さんの考えを教えてください。

A：まず身近な危険がどこにあるのかを**地域の中で共有**する必要があります。

昨年崩落した堀之内のような**老朽化した擁壁やブロック塀がどこにあるのかを総点検**し、マップにして地域の中で共有したらいいと思います。またハードだけでなく**盗難や犯罪などの情報も共有化**して地域全体で注意していくことが大切です。

Q：こうしたリスク管理は、行政のリーダーシップが大切なのでしょうか。

A：その通りです。昨年の埼玉県の八潮の事故、最近の大阪の地下埋設物の突起事故などを受けて、多くの区民の方から「杉並区は大丈夫なの?」といった声が寄せられています。行政の長は、こうした**リスクと真正面から向き合い緊張感を持って取り組むことが必要**だと思います。

区内の道路や橋梁、施設なども多くは老朽化しています。まずは区が**「インフラリスク対策本部」**を設置し、区内の危険個所を総点検して、対策を講じる必要があると思います。

編集・発行：田中良サポーターズ　令和8年（2026年）4月　〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内
TEL／03-3301-3301　FAX／03-3301-3360　Mail／tanakaryo@tanakaryo.com